

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26220103	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	多角的オミックス解析による化学物質－細胞内受容体シグナル伝達攪乱の種差の解明	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	岩田 久人（愛媛大学・沿岸環境科学研究センター・教授）

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、環境中化学物質による細胞内受容体を介したシグナル伝達系のかく乱に着目し、モデル実験動物から環境動物までを対象として網羅的な解析基盤を構築することを目標としたものである。5つのサブテーマが設定されており、それぞれが着実に成果を上げていると評価できる。多様な化学物質を対象とし、多様な生物種での研究は、新しい知見の蓄積に貢献している。今後、5つのサブテーマの成果を有機的につなげることにより、化学物質による生態系への影響・リスク評価において有用な「環境毒性学」に貢献する新しい網羅的解析技術の提案がなされることを期待したい。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	本研究の目的として掲げた、二次元ガスクロマトグラフ質量分析計によるエキスポゾーム解析技術の開発を軸に、実験モデル生物及び一部の野生生物に対して伝達系の感受性規定因子の特定を行った。本研究で提唱された解析方法は、独創的かつ重要な研究成果として評価できる。